公表

事業所における（放課後等デイサービス）自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ほっぷ・すてっぷ滑川		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【運動学習特化型】 大人（社会人）になった際に求められる能力（社会性・協調性・コミュニケーションスキル・問題解決能力など）を活動を通して楽しみながら身に付けていくことができる。	【運動】協力ゲームを中心に、楽しみながら、協調性や問題解決能力を養っている。 【学習】宿題のサポートだけではなく、個々の能力に応じたオリジナル課題を作成・提供することで、得意なこと、苦手なことの要因などを分析し、スキル向上に取り組んでいる。	支援ミーティングや支援のふりかえりを徹底することで、全指導員が質の高い支援を提供できるように支援力向上に努めていく。
2	他機関との連携	学校や学童など、事業所以外の所属先に訪問し、情報共有や連携強化を図りながら支援を実施している。	現在は、他機関に訪問させて頂く機会はたくさん構築することはできているが、館内での様子を見ていただく機会は少ないので、相互に訪問できるような機会を作り出していく。
3	学校生活を基準とした集団生活に順応するために時間に沿った活動を行っている。	毎日、時間に沿った活動を展開することによって、時計を見ながら行動することが習慣化できるようにしている。	時間を見ながら行動することを習慣化させることにより、余裕を持った行動や気持ちのきりかえなどにまで、影響が波及できるようにアプローチしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	曜日によっては、利用児童の学年差が大きく、その中で一緒に活動することがある。	活動スペースが1か所のため、活動内容によっては、全利用者が全力で取り組むことが難しい場合もある。 (低学年：難しい 高学年：簡単すぎるなど)	活動内容の工夫や環境の設定、学年によって活動時間をずらすなどの工夫に取り組むことで、全利用者がおもいっきり活動に参加できるような状況を作り出していく。
2	館外活動の機会が少ない。	事業所近隣に安全に館外活動できるような場所がないため、イベント日などを除いては、館内での活動が中心となっている。	長期休暇時など、支援時間が長く確保できるような機会に館外活動を安全に実施できるように検討していく。
3			